

活動主体同士の「新しい協働」の魅力と可能性（表）

資料2の各活動主体の発表内容と各活動主体のワークシートの記載内容を整理し、「課題」に対して「他の活動主体の長所」をどのように生かすかをまとめたもの

1 地区区民館（同運営委員会）

	課 題	他の活動主体の長所
	<p>運営委員会の役員、担い手が高齢化している 館事業などの活動が硬直化している</p>	<p>【NPO・ボランティア団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館事業について、運営委員会だけでは限界がある。NPO・ボランティアの専門性や多様な活動を新たな事業展開に活用する。 ・地区区民館を活用してもらい、館事業や運営に携わってもらう <p>【学 校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館事業の担い手不足を補うため、学校に子どもを通わせる親に、スポットで関わってもらうなど連携する ・学童クラブ、子ども向け事業を通じて、親と接点を持ち連携する
	<p>館事業の開催、従事者の雇用など、運営委員会の負担が大きい</p>	<p>【事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人を雇い、研修を行い、育っても、すぐやめてしまう。従事者の雇用を地域の事業者に委ねる、または、運営委員会に入ってもらするなど、役員の負担を軽減するために連携する
	<p>運営委員会と区職員の業務分担が不明確</p> <p>区職員が地縁団体や地域のNPO・ボランティア団体の活動状況を把握していない</p>	<p>【 区 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張所廃止後、地域の中での拠点としての機能がより一層求められている。館運営だけでなく、区職員が、地域のことを把握することで、より一層地域の拠点（核）として機能するための、区職員の業務の範囲を見直してもらう

2 町会・自治会

	課 題	他の活動主体の長所
	<p>非会員には何をしているのか分からない 会員でも、役員や何らかの係員でないと、何をしているのかわからない（良さが分からない） 回覧板、掲示板で情報は発信しているが、新住民は何も分からない 若い世代、新住民が入らない</p>	<p>【地区区民館】 ・（西大泉地区区民館の場合）地区区民館には 150 の団体が登録し、年間で 7 万人の利用がある。こうした人たちに町会・自治会の活動が分かるように伝えるため、連携する</p> <p>【学校・学術機関】 ・学校の子どもたちを通じて、若い世代に活動を伝えるため、連携する</p> <p>【 区 】 ・区立施設の来館者に活動を伝えるため連携する</p>
	<p>役員が高齢化している 新しい活動を担える人材がない（集まらない）</p>	<p>【NPO・ボランティア団体】 ・事業の目的や課題を明確にして、NPO・ボランティア団体と連携する</p>
	<p>転入後、時間が経って勧誘しても入らない</p>	<p>【事業者】 ・不動産事業者から新築、転入者情報の提供を受ける ・町会・自治会の入り口として、転入者が最初に出会う地域となる商店会と連携する</p>
	<p>町会・自治会の良さを実感していない会員は、良さを伝えられない（口コミによる広報が弱い） 子どもが大きくなると事業等に顔を出さなくなる</p>	

3 NPO・ボランティア団体

	課 題	他の活動主体の長所
	<p>広報手段が乏しく、活動が伝わらない 地縁団体から認識されづらい 団体の目的・活動がわかりにくく、信頼性がない</p>	<p>【町会・自治会】 ・掲示板、回覧板など町会・自治会が持っている地域活動の資源の活用する 【地区区民館】 ・広報で効果的なのは口コミ。多世代、多様な地域住民が活動している地区区民館に、NPO・ボランティア団体が得意とする口コミ力を組み合わせる 【 区 】 ・区が持っている広報媒体を活用する</p>
	<p>活動資金が乏しい、助成金に依存している</p>	<p>【 区 】 ・地域活動の支援に使える資源（活動資金・人材）を活用する</p>
	<p>活動拠点がない</p>	<p>【町会・自治会】 町会会館を活動場所として活用する 【地区区民館】【 区 】 公立施設の活動場所として活用する 【事業者】 空き店舗、ひろば、アーケード、普段使わない部屋を活動場所として活用する</p>

4 事業者（企業・商店会）

	課 題	他の活動主体の長所
	若い人の新しい店は地域とつながりがない	【町会・自治会】 ・地域とのつながりを築いていく地域から信頼されている町会・自治会を活用する
	社会貢献活動と営利活動との区別で誤解が生じる 企業や商店は、地域活動をするとは最後は営利につながると考えられている（社会貢献的な活動に対する信頼性が無い） 企業や商店が持っている長所（防犯、にぎわい、高齢者の買い物支援など）を地域で十分生かされていない	【町会・自治会】 ・企業や商店が持っている長所を生かすことで、社会貢献につながることを理解してもらい、回覧板等を個店の広報に活用する 【町会・自治会】【地区区民館】【学 校】【 区 】 ・新しい基準づくり、信頼性と客観的な評価を一緒に考えていく
	担い手が高齢化し、地域活動への参加者が減っている	【NPO・ボランティア団体】 ・子ども向けイベントでの子育て団体との連携など、商店会のイベントで、NPO等の専門性を活用する

5 学校・学術機関

	課 題	他の活動主体の長所
	<p>管理運営が閉鎖的である P T A 活動・学校での活動が一部の人に負担が偏りっている 子ども自身も課題を抱えている 親も子どもに関する悩みを抱えている 教育機関というセクターの中で、個別の課題には関わりにくい</p>	<p>【N P O ・ ボランティア団体】 ・子育て、発達支援、障害者支援、中高生特有の悩み（進路・人間関係）など、明確な課題に対して活用する 【事業者】 ・通学路における平時の子どもとのつながりを生かした見守り、声掛け、駆け込み場所などでの活用する</p>
	<p>子どもたちが忙しく、地域活動に参加できない</p>	<p>【事業者】 ・キャリア教育での活用する 【区】 ・学校の授業の中で、公共性について学ぶために活用する</p>
	<p>先生、子ども、親、それぞれが忙しい</p>	<p>【町会・自治会】 ・お祭りなど、親子で楽しめる機会、空間として活用する 【地区区民館】 ・学校でも、家庭でもない、もう一つの居場所として活用する</p>
	<p>様々な事件があり、子どもがいない方には学校に関わる機会がない 課題があっても、学校に子どもが在籍している期間だけ我慢すれば終わるので、課題が潜在化している</p>	

6 区

	課 題	他の活動主体の長所
	多様化する課題に対して区だけでは対応できない	【町会・自治会】【NPO・ボランティア団体】【事業者】 ・課題解決に向け、各活動主体の特性を活かして連携する。
	縦割りで、情報のプラットフォームがない 職員は区民とうまくつき合うノウハウを獲得できる機会がない 地域に出かけ、区民と対話することが、仕事として位置づけられていない 協働に対する意識が低い	【町会・自治会】 ・町会・自治会に集まる地域情報の活用する 【地区区民館】 ・地区区民館を利用する様々な団体からの情報収集、対話、連携を行う 【NPO・ボランティア団体】【事業者】 ・事業や活動を通じての情報収集、対話、連携を行う